

# 安全な避難のために

木曽岬町では、津波による浸水の危険性や、安全な避難を促すため様々な取り組みを行っています。

# 海抜表示板

海抜表示板は、居住地域の海抜がどの程度であるかを日頃から意識し、津波災害に対する警戒と防 災意識を高めるとともに、地域の防災力の強化を目的として、目につきやすい電柱等に設置してい ます。





# 指定緊急避難場所(一時避難所)標識

木曽岬町が指定した指定緊急避難場所(一時避難所)には、出入り口等の見やすい箇所に標識を設置し、また、震度5弱以上の地震動を感知すると自動的にボックスの扉の鍵が開錠される「防災ボックス」を設置しています。このボックスには、窓ガラスを割るためのバールをはじめ、ラジオ付懐中電灯や拡声器が備えてあります。

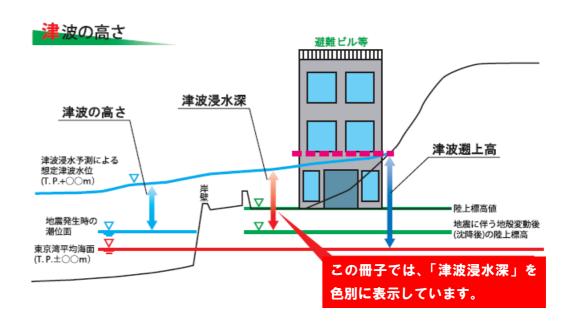


指定緊急避難場所(一時避難所)標識



防災ボックス

# 津波の高さ



津波浸水深: 地震後の 地盤高さから予測した 地表からの水位

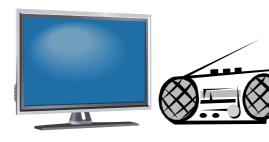
**津波遡上高**:標高 0m から津波が駆け上がっ たところ(波先)までの 高さ

津波の高さ: 地震発生 時の海面潮位からの 高さ

# 大津波警報、津波警報、津波注意報(気象庁)

	予想される津波の高さ		L.フ.ヤナケモL		
	数値での発表	定性的表現	とるべき行動	想定される被害	
大	10m超 (10m<高さ)		ハ出がゆロンハーハフエは セギャーさんゆ		
大 津 波 警 報	10m (5m<高さ≦10m)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や 一時避難所など安全な場所へ避難してくだ さい。	木造家屋が全壊・流失し、人     は津波による流れに巻き込ま     れます。	
報	5m (3m<高さ≦5m)		津波は繰り返し襲ってくるので、警報が解除   されるまで安全な場所から離れないでくだ	1109.	
津波警報	3m (1m<高さ≦3m)	高い	さい。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。	標高の低いところでは津波が 襲い、浸水被害が発生します。 人は津波による流れに巻き込 まれます。	
津波注意報	1m (0.2m≦高さ≦1m)	-	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 注意報が解除されるまで海岸に近付いたり しないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。	

■安全な場所に移動してから、防災行政無線やラジオ、携帯電話などで情報を確認しましょう。



テレビ ラジオ

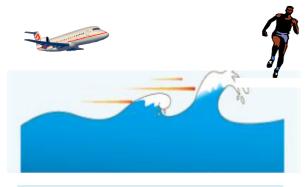


携帯電話



屋外拡声器·広報車等

# 津波の基礎知識



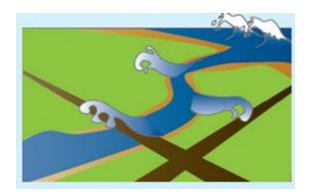
### ■深海ではジェット機並みのスピード

津波は、海が深くなるほど早く伝わる性質があり、沖合では時速約800kmのジェット機に匹敵する速さです。陸地に近づき水深が浅くなると波高が高くなり、速度は遅くなりますが、水深10mの位置でも短距離ランナーの全速力並みのスピート(時速約36km)があります。



#### ■恐るべき破壊力

津波は、海底から海面までの全ての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力はすさまじいものとなります。また、引き波も長時間にわたり引き続けるため、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



#### ■河川への逆流(遡上)

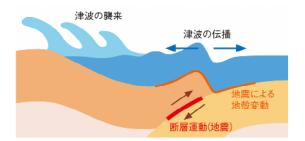
津波は、河口から河川に浸入し、何kmも上流に逆流(遡上)することがあります。逆流した津波が、河川堤防を越えて沿岸地域に大きな被害をもたらすことがあります。



#### ■水深が浅くても危険

水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。

津波は、勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元がすくわれてしまう可能性があります。



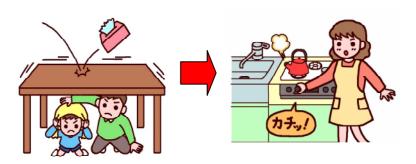
#### ■津波は繰り返し襲って来る

津波は何度も繰り返し襲ってきます。必ずしも1回目の 津波が最大であるとは限らないので、警報・注意報が解 除されるまで警戒をゆるめないでください。

# 津波から身を守る

# 1. 地震の揺れから身を守る

- ■緊急地震速報を聞いたら、
- 落ち着いて、自分の身を守る。
- ■ドアを開けて、出口を確保する。
- ■火の始末、ガスの元栓を閉める。
- ■電気のブレーカーを切る。



# 2. 津波警報や避難勧告を待たずに、ただちに避難をする

- ■揺れがおさまったら、ただちに指定緊 急避難場所(一時避難所)に避難する。
- ■「より遠く」ではなく「より高い場所」 へ避難する。
- ■ブロック塀やガラスなどに注意する。
- ■できる範囲で、近所の人に声をかけ避 **ただちに避** 難を促す。
- ■津波注意報が解除されるまで、安全な 場所にとどまる。



普段の心得

# 避難時の注意事項



■車での避難は、渋滞などのおそれがあります。歩いて避難することができない方以外は、ひかえてください。



■普段から、津波の 時に避難する場所 を確認しておきま しょう。

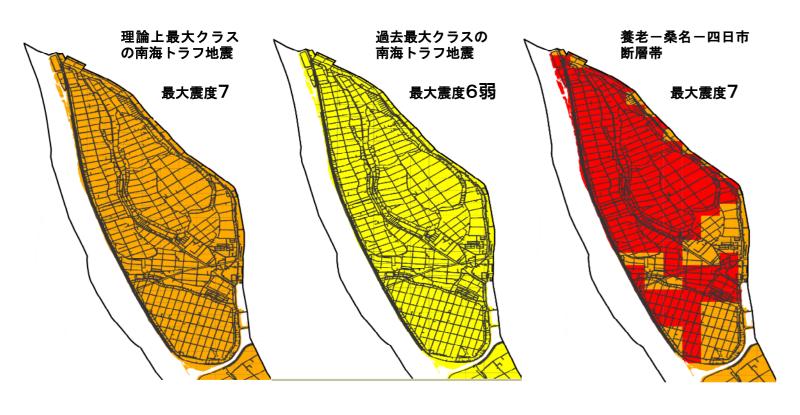


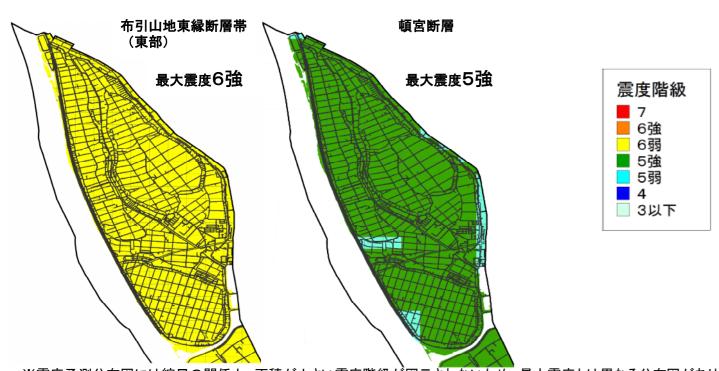
■河川堤防沿いは、倒 壊の危険やより早く 津波がきますので、利 用をひかえてくださ い。



■地震や津波などの学習をして、起こりえる災害について確認しておきましょう。

# 震度予測分布図

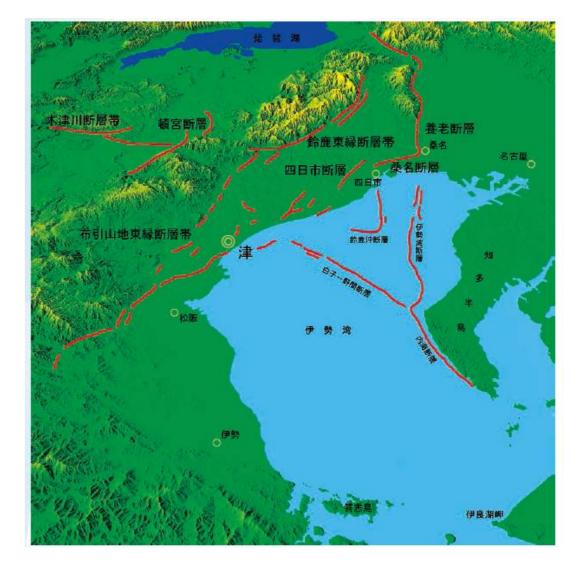




- ※震度予測分布図には縮尺の関係上、面積が小さい震度階級が図示されないため、最大震度とは異なる分布図があります。
- ■この図の前提となっている地震(液状化危険度予測分布図も同様)
- 1. 理論上最大クラスの南海トラフ地震: あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震
- 2. 過去最大クラスの南海トラフ地震: 過去概ね100年から150年間隔でこの地域を襲い、揺れと津波により三重県に甚大な被害をもたらしてきた、歴史的にこの地域で起こり得ることが実証されている南海トラフ地震
- 3. 陸域の活断層を震源とする地震
- (1)養老一桑名一四日市断層帯 (2)布引山地東縁断層帯(東部) (3)頓宮断層

# 三重県の活断層

三重県内には、北勢地域から中勢地域および伊賀地域にかけて、活断層が多く見られます。そのうち鈴鹿山脈 や布引山地の東縁には、活断層が最も集中しており、平野部との地形の境界に、南北方向に断層が連なっていま す。また、伊勢湾岸に近い平野部や伊勢湾の海底にも活断層が見られます。



	断層名	断層の 長さ(km)	想定 M	最新活動時期(最も近い 過去の大地震の証拠)	平均活動間隔	地震発生確率 (30 年以内)	調査年度 (調査機関)
	養老-桑名- 四日市断層帯	約 60	8 程度	13~16 世紀(一つ前の活動は、7世紀~11世紀)	1,400~1,900 年 (過去1万年間の平均)	ほぼ0~0.7%(やや高 いグループ)	H9~10(国)
	鈴鹿東縁断層帯	約 34~47	7.5 程度	約 3,500 年前~2,800 年前	約 6,500~ 12,000 年	ほぼ 0~0.07%	H7~8(県) H13~14(県)
	布引山地東縁	(西部) 約 33	(西部) 7.4 程度	(西部)約 28,000 年前~ 400 年前以前	(西部) 17,000 年程度	(西部)ほぼ 0~1% (やや高いグループ)	H9~13(県)
	断層帯	(東部) 約 48	(東部) 7.6 程度	(東部)11,000 年前頃	(東部) 25,000 年程度	(東部)0.001%	
	頓宮断層	約 31	7.3 程度	約 10,000 年前~7 世紀	約 10,000 年以上	1%以下(やや高いグループ)	H11(国)
	木津川断層帯	約 31	7.3 程度	1854 年(安政元年)伊賀上 野地震	約 4,000~ 25,000 年	ほぼ 0%	H10~11(国)
	伊勢湾断層帯 (白子一野間断 層)	約 21	7.0 程度	概ね 6,500 年前~5,000 年 前	8,000 年 程度	0.2~0.8%(やや高い グループ)	H7(国)

※木津川断層帯の、対応する可能性のある歴史地震は、1854年(安政元年)伊賀上野地震

# 地震への備え

# 家の中の安全対策

### ■家の中に安全な空間を確保する

家具等を置かない部屋をつくるなど、家の中の逃げ場と なる部屋を確保しておきましょう。

### ■寝室には背の高い家具を置かない

寝ている間に家具や電化製品が倒れる恐れがありま す。寝室には背の高い家具や電化製品を置かないよう にしましょう。

## ■出入口の近くや通路に物を置かない

物が倒れたり散乱したりし、出入口や通路をふさいでしま う恐れがあります。安全かつ速やかに避難できるよう、物 を置かないようにしましょう。

#### ■家具の固定やガラスの飛散防止をする

タンス等を金具で固定したり、食器棚などの扉が開かない よう止め金具をつけたりするなどの対策をしましょう。

# 家屋・家の周りの安全対策



## ■家屋の耐震化

震災での死傷者の多くは、家屋の倒壊によるものです。 町では建物の耐震化を進めており、大地震に対する安 全性が低いとされる旧耐震基準(昭和56年5月31日以 前)の木造住宅についての工事等の補助を行っていま す。

#### ■ブロック塀の耐震化

ブロック塀が倒れると、けがをしたり、避難路がふさがれ たりすることがありますので、生垣にかえたり、ブロック塀 の耐震化をすすめましょう。

# 家族で防災について話し合おう



## ■家族で役割分担を決めましょう

家族で、非常持ち出し品や備蓄品の点検、消火、出口を 確保する係など、それぞれの役割を決めておきましょ う。また、高齢者など支援が必要な方がいる場合の避難 方法についても考えておきましょう。

#### ■緊急時の連絡方法の確認

家族が離ればなれになった時の連絡方法などを決めて おきましょう。また、災害用伝言ダイヤル等の使い方を 確認しておきましょう。

#### ■避難場所や避難路の確認

■家の中の危険箇所の確認

や共有することができます。

避難場所までの避難路をいくつか決め、家族みんなで歩 いて下見しておきましょう。また、下見の際に、危険な箇 所がないか確認しておきましょう。

家の中の危険箇所などについて、家族と意見を出し合う

ことで、家具の固定などの対策が必要な箇所の洗い出し

# 地震発生時から避難・避難後までの行動マニュアル

グラッ 地震発生 ▶ 1~2分 ▶▶▶ 3分 ▶▶▶ 5分 ▶ ▶ 10 分 ▶ 3日

# 最初の激しい揺れば 約1分程度

#### (1)まず、身を守る

クッションや座布団などで あたまを保護。机やテーブ ルの下へ。



# ②すばやく火のしまつ

ガスやストーブの火を消し、 電気器具はプラグを抜く。



#### ③非常出口の確保

玄関、窓を開けて逃げ口を 確保。



# 揺れが収まったら 家族の安全確認

#### ①火元の確認

ガスの元栓を閉め、電気の ブレーカーを落とす。もし 火が出ていたらあわてず初 期消火を。

#### ②家族の安全確保

倒れた家具の下敷きになっ ていないか確認。

#### ③靴またはスリッパを履く

ガラスの破片や散乱物から 足を守るため、靴か底の厚 いスリッパを履く。



### 4.危険地域からは避難 津波のおきそうな危険地域

からすくに避難。

# 余震に注意しつつ 隣近所の安全確認

#### 1隣近所への声かけ

けが人、行方不明者がいな いかを確認する。



# ②火災時には初期消火

大声で知らせて、消火器、 バケツリレーなど近隣で協 力して初期消火を。



# デマに惑わされず 正確な情報を収集

#### ①正しい情報を聞く

ラジオ等で正確な情報を収 集。役場、消防、警察、自 主防災組織の情報を確認。



#### 2電乱排営連絡を優先

安易に電話をかけることを 避け、安否の確認は「災害 用伝言ダイヤル」等を活用 する。



# ③危険があればすぐに誤難

家屋倒壊などの危険があれ ばすぐに避難する。



避難後は助け合い

の心で行動を

1消火、救出、救護活動

みんなで協力して、消火活

動や、救出、救護活動に。

日頃から最低でも3日分の

3倒壊した家等コは入らない

倒壊した家やその危険性が

ある家には決して入らな

飲料水と食料の備蓄を。

②水・食料の確保 いざというときのために、

# 震度



屋内にいる人の 一部がわずかな 揺れを感じる。

地震計のみで観 測でき、人体には 感ない。



電線が大きく揺











吊り下げ型の電

灯や障子などが

わずかに揺れ

食器棚や書籍が

落ち、窓ガラスが

割れることがあ



震度



電線が少し揺 れ、棚の食器が 音を立てること がある。



テレビが台から 落ち、タンスや自 動販売機が倒れ ることがある。



耐震性の高い住 宅でも、傾いた り、大きく破損す るものがある。

れ、花瓶など座り の悪いものが倒 れることがある。





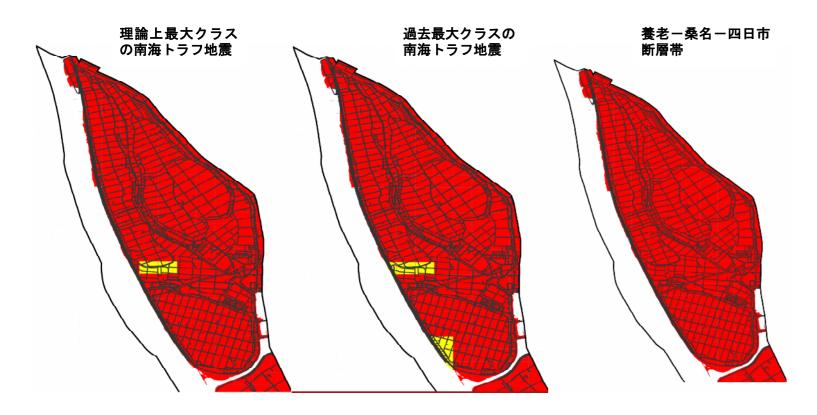


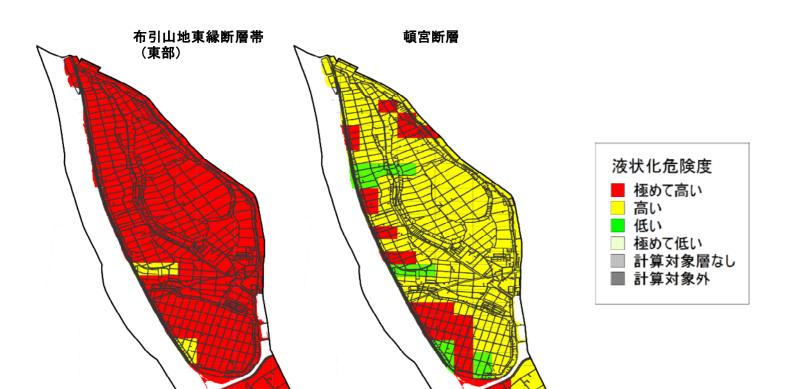




る。

# 液状化危険度予測分布図





# 液状化発生のしくみ (メカニズム)

液状化とは、地震動によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象です。木曽岬町は、液状化現象が 起こりやすいと言われる砂質土がゆるく堆積し、地下水位が高いところです。

このような地盤に、地震による強い揺れが加わると、砂の粒子間のつながりが崩れて液状化し、建物等の沈下 や傾斜が発生したり、地中のマンホールや軽い管路等が浮き上がったりします。

#### 液状化が発生しやすい土地条件

- ●若い(新しい)埋立地
- ●大きな川の沿岸(特に氾濫常襲地)

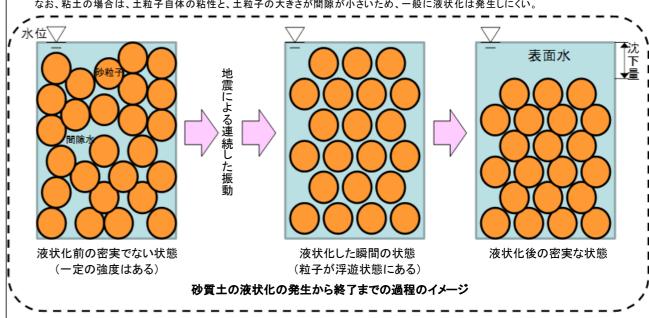
●過去に液状化の履歴がある土地

- ●砂鉄や砂礫を採掘した跡地の埋戻し地盤
- ●旧河道・旧池沼(昔、川や沼や池があった場所)
- ●海岸砂丘の裾(すそ)・砂丘と砂丘の間の低地
- ●沢埋め盛土の造成地

(下図左)地盤内の密実でない砂質土は、砂粒子間の摩擦力によって安定を保っている。

- (下図中央)地震による連続した振動は砂粒子を密実化させるが、砂粒子の間隙に存在する水(間隙水)の流出(地下水位 の上昇)は短時間には進まないため、間隙水の圧力が一時的に上昇する。この間隙水圧が、砂粒子間の摩擦力を 超えると、砂粒子間の噛み合わせが外れて水に浮いたようになり(液状化した瞬間)、強度を失って建築物等に影響
- (下図右)時間の経過によって、砂粒子が密実化することで体積が減少して地表面が沈下する。また、間隙水の排出も進む が、その一部が地表面に吹き出すこともある。

なお、粘土の場合は、土粒子自体の粘性と、土粒子の大きさが間隙が小さいため、一般に液状化は発生しにくい。





歩道・街路灯の被害 出典:内閣府 HP



宅地の被害 出典:国土交通省 HP

# 緊急時の情報発信手段

■緊急速報メールをはじめ、町ではさまざまな手段で町民の皆さんに災害情報などが伝達できるよう整備を 行っています。

### 町からの情報発信手段一覧

ולאד הו לי כי מניי				
情報の種類	防災行政無線 (戸別受信機)	緊急速報メール	CTY データ放送	テレホン サービス
①緊急地震速報	● (J アラート)	● (気象庁)		
②地震情報	● (J アラート)		•	
③東海地震情報	● (J アラート)	● (J アラート)	•	
<b>④津波情報</b>	● (J アラート)	● (J アラート)	•	
<b>⑤特別警報</b>	● (J アラート)		•	
⑥国民保護情報	● (J アラート)		•	
⑦避難情報	•	•	•	
⑧火災情報				•

- ◎テレホンサービス: (正式名)火災救助災害情報案内(自動音声)TEL0594-21-7777
- ◎()内は情報発信元、記載のない場合は情報発信元は町

### 各情報の内容

H I I I I I I I I I I I I I I I I I I I		
①緊急地震速報	・三重県北部に震度4以上の地震発生が予測された場合	
②地震情報	・町内で震度4以上の地震が発生した場合	
③東海地震情報・東海地震の予知情報等が発表された場合		
④津波情報 ・伊勢・三河湾沿岸に大津波警報、津波警報が発表された場合		
⑤特別警報	・町内に特別警報(暴風、大雨、高潮、波浪、暴風雪、大雪)が発表された場合	
<b>②国民促进棒</b> 邦	・内閣官房から国民保護に関する情報(弾道ミサイルに関する情報、ゲリラ攻撃情報、航空攻撃情報、大	
⑥国民保護情報	規模テロ情報、その他国民保護に関する情報)が発表された場合	
⑦避難情報	・避難勧告等の避難に関する情報	
⑧火災情報	・火災が発生した場所、時間、種類に関する情報	



防災行政無線



戸別受信機

#### Jアラート(全国瞬時警報システム)とは

J アラートは緊急地震速報や弾道ミサイル情報など、対処に時間的余裕のない事態が発生した場合に、その情報を国が人工衛星を用いて全国の市区町村等に送信するものです。町では、J アラートからの緊急情報を受信した場合、防災行政無線(戸別受信機)を自動起動し、緊急放送を実施します。これらの情報が放送された場合、ただちに身の安全を確保し、テレビなどをつけ、情報に注意して落ち着いて行動するようにしましょう。

#### 緊急速報メールとは

NTT ドコモ、au、ソフトバンクの「緊急速報メール」を利用し、避難情報などの緊急災害情報を携帯電話、スマートフォン向けに配信します。事前の登録は必要ありませんが、対応機種かどうかは各社のホームページ等で確認が必要です。また、ご自身がその時いる場所によって配信されるサービスが異なります。例えば名古屋市にいれば、名古屋市の情報が配信されます。

#### 特別警報とは

気象庁は、お住まいの地域で数十年に一度しかないような豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。特別警報の対象とする現象は、大津波や高潮、豪雨等が該当します。特別警報が出た場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあると考えられます。周囲の状況や町から発表される避難準備情報や避難勧告、避難指示などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

# 正確な情報に基づいて落ち着いた行動を

災害の発生、または発生の恐れがある場合に、町から避難の情報や指示を出すことがあります。警報が発表されたときや災害の情報があるときなどは、複数の方法で情報収集を行い、危険を感じたら早めの避難行動をとりましょう。避難情報の種類は次の通りです。

避難情報	発令時の状況	町民の皆さんがとるべき行動
避難準備情報	・要配慮者等、特に避難行動に時間を要する方が 避難行動を開始しなければならない段階であり、 人的被害の発生する可能性が高まった状況	・要配慮者等、特に避難行動に時間を要する 方は、計画された避難所への避難行動を開始(避難支援の方は支援行動を開始) ・上記以外の方は、家族等との連絡、非常持出 品の用意等、避難準備を開始
避難勧告	・通常の避難行動ができる方が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	・通常の避難行動ができる方は、計画された避難所への避難行動を開始
避難指示	<ul><li>・前兆現象の発生や現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況</li><li>・堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況</li><li>・人的被害が発生した状況</li></ul>	・避難勧告等の発令後で避難中の方は、確実な避難行動を直ちに完了する。 ・未だ避難していない対象の方は、直ちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る最低限の行動

# 我が家の防災メモ

■職場・学校から自宅まで歩いて	分です。
■情報収集の手段として	を用意しています。
■家族が連絡をとる手段は、①	2
3	です。
■近所で声かけが必要な方は、	です。
■非常持出品は、	にあります。

# 非常持出品リスト

非常持出品は、非常時に持ち出す最低限のものをコンパクトにまとめて、持ち出しやすいところに置きましょう。 地震発生後に自宅に取りに戻ったり、準備のために時間をかけることは、危険ですからやめましょう。

□貴重品(現金、身分証明書、通帳、印鑑など)

口懐中電灯(予備電池も含む)

口携帯ラジオ(予備電池も含む)

□ホイッスル

□救急用品(持病のある方は常備薬、お薬手帳)

□水・食料(チョコレート・キャンディ、乾パンなど火 を通さず食べられるもの)

口携帯電話の充電器

□その他(ティシュペーパー、タオル、予備めがね、 簡易トイレ、生理用品、ポリ袋、使い捨てカイロ、 家族の写真など)

※要介護者がいる場合 : 介護用品、常備品、紙おむつ など ※乳幼児がいる場合 : 粉ミルク、ほ乳びん、紙おむつ など ※ペットがいる場合 : 食料、リード、ゲージ、迷子札 など

避難所などで避難生活を送る時に必要な水・食料

など生活用品の備蓄は最低でも3日分用意しましょ

う。





# 災害用伝言ダイヤル 000

災害発生時(震変6弱以上の地震など)に稼働するNTTの災害用伝言ダイヤルサービス。家族や友人が被災した場合の安否確認や連絡に役立ちます。

伝言を 録音する [1]を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、

「被災者以外」の人は被災者の電話番号を(市外局番から) (000)000-0000→伝言を吹き込む(30 秒以内)

伝言を 再生する **1 7 1** 局番なしの「171」をダイヤル。

後は音声ガイダンスに従って…

2 [2]を押す。

「被災者」は自分の電話番号を、 「被災者以外」の人は被災者の電話番号を(市外局番から) (000)000-0000→伝言を聞く(30 秒以内)

※災害用伝言ダイヤルサービスの開始はテレビ、ラジオなどで通知されます。※一般加入電話(ダイヤル・ブッシュ式)、公衆電話、携帯電話・PHS(共に一部事業者を除く)で利用できます。

編集:木曽岬町危機管理課 (発行日:平成27年発行)





平成23年3月11日発生した東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)は、過去に例を見ない甚大な津 波被害をもたらしました。

このガイドブックの津波浸水予測図や、震度予測分布図、液状化危険度予測分布図は、三重県が平成26年3月に公表した地震被害想定調査をもとに作成しています。

想定される災害を事前に知り、一人ひとりが災害について日頃より考え準備していただくことが、いざというときに人命を守り、防災・減災への第一歩となります。

今回三重県が公表した調査結果は、数多くある可能性の中からいくつかを選んだもので、次に起こる地震が想定どおりになるとは限りません。想定を参考にすることは大事ですが、想定だけにとらわれ、油断してもいけません。